

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹



No.3

2015年春号
4月1日発行

皆様のご支援で出来ること

教育

- ▶奨学金の供与
- ▶学用品の支給
- ▶学校や託児所の設備・建設

健康

- ▶栄養補給
- ▶生活設備の改善
- ▶衛生教育

自立

- ▶職業訓練の実施
- ▶研修施設の整備建設
- ▶インストラクターの派遣

ことが出来ていきます。「親の仕事が不安定なため奨学金なしでは学校に通うことが出来ません」「おかげさまで無事に高校を卒業できました」といった感謝の声が届いています。児童基金が、子どもたちにとって一定の役割を著実に果たしてきた成果と言えるでしょう。支援開始から15年余りが経ち、奨学生の中から、学校の先生になった生徒やIT企業で働くようになった生徒も出てきました。

とはいえ課題もあります。貧しい家庭の子どもたちは、小学校に入学することが10歳を超えてからのこと

今後多くの方々に協力をお願いしながら、「国連子どもの権利条約」が謳う「子どもの最善の利益」を念頭に置いて、より充実した子どもたちのケアを行っていき

ぴつばら国際児童基金は、2001年の国連国際ボランティア年を記念して、全日本仏教婦人連盟と全国青少年教化協議会が共同で設立した基金です。以来15年間、インドを中心に教育・福祉・自立の観点から、支援を必要とする子どもたちのケアを行ってきました。

インドでは、カルカッタ、ベナレス、ラダックの三都市において、帰る家のない

ストリートチルドレン、貧困家庭の子どもたち、障がいを持った子どもたちを対象に「里親運動」として、学習を継続するための奨学金を給付してきました。15年間で奨学生は延べ1000人を超えました。現在も毎年100名近くの子どもたちが奨学金を受けています。

子どもたちからは、「奨学金のおかげで勉強を続ける

公益社団法人
全国青少年教化協議会主幹

神仁

里親運動について



もしばしばあります。そのため、高校を卒業するのが20歳ぐらいになることもあるのです。現状では、児童基金は18歳までの子どもを奨学金の支給対象としているため、学業半ばで支援を打ち切らざるを得ないケースもあります。

そのような子どもたちを継続的に支援し、さらには高校卒業後も専門学校や大学で学ぶ機会も提供していく必要があると考えています。

ぴつばら国際児童基金では、奨学金給付の他にも、校舎の建設や設備の充実、無料診療所の運営、難病の子どもたちへの手術費の提供など、子どもたちが今、まさに必要とする支援活動を行っていきます。

私たちの活動報告

27年度文化講座予定

▶第89回

【日時】4月15日(水)
午後2時 天王寺
【演題】子守唄に導かれて
【講師】NPO法人子守唄協会
理事長西館好子氏

▶第90回

【日時】5月20日(水)
【演題】ありがとう禅
【講師】町田宗風師

▶第91回

【日時】6月23日(火)
【古寺巡り】
京都寂光院・三千院他

▶第92回

【日時】9月16日(水)
【講師】大本山須磨寺大仏師
山高龍雲師

▶第93回

【日時】10月21日(水)
【講師】弁護士柴田龍太郎氏

▶第94回

【日時】11月18日(水)
【演題】青年僧達と語らう

▶第95回

【日時】28年1月20日(水)
【演題】写経会

▶第96回

【講師】28年2月8日(月)
護国寺参拝/修正会法要

編集後記

◆1、2、4、5月開催の文化講座のご報告は7月に発行する【全佛婦】に、また6、9、10、11月開催につきましては正月号に掲載いたします。(広報委員一同)

1月

- 1日 「全佛婦」120号発行
- 16日 第7回役員会(天王寺)
- 20日 念法真教一宮良範様来局
(公社)日本仏教保育協会新年懇親会出席
(ザ・プリンスパークタワー東京)
- 21日 第87回文化講座
- 29日 修正会打合せ(東京プリンスホテル)
(公財)全日本仏教会新年懇親会出席(東京プリンスホテル)
- 30日 (公財)国際仏教興隆協会理事会出席(増上寺会館)

2月

- 1日 第4回マナー講座
- 4日 第8回役員会(天王寺)
- 13日 新年修正会(ザ・プリンスパークタワー東京)
- 18日 第6回理事会(天王寺)
第88回文化講座

3月

- 4日~6日 花の種発送作業
- 25日 第5回マナー講座

各事業にご協力、またご賛助いただき、ありがとうございます。

▼写経運動にご協力の方々

【事務局扱い】

本多 端子
永崎 亮安
石田 玉恵
由井つな子
中村 京子
横山 俊子
村上 和之
木村 匡成
望月みゆき
林 恵智子
徳永美登利
高橋ふみ子
鈴木トヨ子
海老名初江
松村恵美子

【富山念法寺扱い】

花森 英明
花森 英輔
花森 榮子
茂住 睦子
中瀬 宮子
桶屋 佳孝
桶屋美千子
桶屋 幸江
横山 純一
横山 節代

源通夕希子

野村みゆき
三室由紀子
土井 崇資
土井 久子
鍛冶 由紀
柴田 幸子
安井 昭子
藤井 美妃
為井みつ子
横澤 要吉
横澤 晴江
古川 常子
古川 智恵
西尾ヒサミ
西尾 美穂
柳瀬真理子
岸本 光江
森作三恵子
前田壮志朗
中島 祥子
坂 志津子
安カ川奈央
安カ川真由美
奥田伊津子
上田 俊和
浦山 信子
智代

利波 舞花

作田 史織
神田美知枝
紙屋 栄子
松本美美子
角谷 忍
角谷 由美
岩城 夏子
白倉千賀子
山本 敏子
山本 真弓
千田 和子
田上 恵梨
古川 久子
上野智恵子
木船千賀子
中田 郁江
明 郁子
河原 悦子
中島優紀子
濱岸 裕子
三室 清和
三室 和也
西野 鮎美
山崎佐智子
宮本 敏保
宮本 良子
匿名

▼新賛助会員ご紹介

金子淑江(曹洞宗興元寺)

▼賛助金にご協力の方々

浄土真宗東本願寺派

▼ご芳志を頂きました方々

念法真教 河原時子
徳永美登利 重森智恵
シャンティ国際ボランティア会

▼六大事業にご協力の方々

小田義海

▼災害見舞金にご協力の方々

はまなす友の会

▼新年修正会ご出席の方々

佐々木公子 木南鈴子
鈴木トヨ子 河原時子 善照寺

▼タオル運動にご協力の方々

武林 隆 末廣久美 中村京子
小林牧子 佐々木公子
岩脇孝子 鈴木トヨ子 天王寺
金嶺寺

▼里親運動にご協力の方々

由井つな子 江森匡正
木南鈴子 善照寺 重森智恵

▼あおぞら奨学基金にご協力の方々

天王寺 末廣久美 峰島征子
伊澤陽子

(1月1日~3月20日現在)
(順不同・敬称略)

ご案内

第28回 花まつりフェスティバル in サンシャイン

【日時】4月3日(金)
午後2時から
【会場】池袋サンシャインシティ・
アルパB1噴水広場

第3回 総会

【日時】6月2日(火)
午前11時から
【会場】孝道山本仏殿
神奈川県横浜市
神奈川区鳥越28

第62回 大会

【日時】10月26日(月)
午前11時から
【会場】ザ・キャピトル
ホテル 東急



平成27年新年修正会
 2月13日(金)、新年修正会をザ・プリンスパークタワー東京で、ご来賓、関係団体、会員等160名の参加をいただき、開催いたしました。

法要は(公財)全日本仏教僧法団の川名観恵理事長のお導師のもと有志の方々により厳粛に執り行われ、引き続き今年度は初の試みとして8宗派、9団体の尼僧、寺族、会員の檀信徒によるご詠歌と詠舞をご奉納いただきました。

東伏見会長は新年にあたり、「思いを発信していくことで、道は必ず開けていく」と挨拶をし、「子どもたちの未来のために」美しい地球を残したい、今後は環境問題に真剣に取り組んでいくと決意を述べました。

ご来賓の全日本仏教会の齋藤明聖理事長は「何かを発信していくことは社会との新たな関係を結んでいくことであり、いま女性仏教者が日頃生活の中で活動をしていることはとても大切なことであり、今後大いに期待している」と祝辞を述べられました。

大本山護国寺貫首岡本永司猥下の乾杯によりにぎやかに懇親会が始まり、岡野郷子孝道山副統理はじめご来賓に貴重なお言葉をいただき、和やかな交流の場となりました。その後全国青少年教化協議会の神仁主

平成27年新年修正会開かれる

幹にインドの子どもたちへの里親運動資金13名分を贈呈いたしました。

会場では恒例の「心の募金」16万5千円が集められました。この募金は、釜石の被災者の会、「はまなすの友の会」のご寄付と、これまでに寄せられている募金と合わせて、20万円とし、昨年11月の長野県神城断層地震の災害見舞金として白馬村へ直接送金いたしました。ご協力ありがとうございました。なお、当日のお土産の色とりどりの鈴鉦置きは「はまなす友の会」の方々が一所懸命に手作りされたものです。



曹洞宗梅花流



曹洞宗梅花流



臨済宗妙心寺派花園流



浄土宗吉水流



真言宗豊山派豊山大師講



念法真教



真言宗智山派密厳流



日蓮宗



天台宗叡山流

News



おおぎょう
 「環境問題」というと大仰ですが、身近なところから「子供たちの未来のために」少しずつでも何か出来る事はないかを考えていきたいと思っています。その一環として、多くの人に配布する「ひと粒の種」リーフレット上で、環境について問いかけていきます。今年度のテーマは「水」です。



a gallery

子ども達からの手紙

全日本仏教婦人連盟が支援してきた
4名が無事卒業しました。
今年から新たに4名の子ども達を支援いたします。

スラジ・クマール・マウリヤ君
10年生

アビシエク・マウルヤ君
10年生

アビシエク・マウルヤ君
10年生

アビシエク・マウルヤ君
10年生

ご協力をお願い

インドの子ども達は1ヶ月3000円で教育を受けられ生活することができます。子どもを家族として応援する「チャイルドサポーター」にどうぞご理解ご協力をお願いいたします。

- ◆ 子ども1人につき、1ヶ月3000円でサポートします。
- ◆ ご友人、ご家族などでのグループ支援も可能です。
- ◆ 担当する子どもの成長記録、絵、手紙をお送りいたします。

お問い合わせは 全日本仏教婦人連盟 全国青少年教化協議会

☎ 03-5772-0677
☎ 03-3541-6725

里親運動

インドのスラムや路上で暮らしている子ども達。児童労働を強要されている子ども達。そうした子ども達を対象に、現地のNGOと協力して、里親運動を実施しています。

サールナート日本寺、法輪精舎は曹洞宗の僧侶、後藤恵照師が1979年より貧しい地元の子どものために無料の日曜学校を開き、学用品・軽食を施して仏教や英語などを教え始めた寺院です。

私たちが支援している学校の一つであるDCV(ダルマ・チャクラ・ヴィハラスクール)を1993年に開校し、中学、高校、短大、そして小学校を開校しています。その教育は化学・数学は勿論、語学はパーリ語などにも及び、非常に高度で充実した内容で、生徒たちも授業に真剣に取り組んでいます。

貧困の悪循環から脱するために無料の教育を必要としている子ども達は多く、教室も増設に次ぐ増設という状況です。

DCVの運営資金は後藤先生の崇高な慈悲と布施の菩薩道に共感したインド或いは日本の寺院や法人の寄付、(公財)全国青少年教化協議会のサポートなどで賄われています。また私たち(公社)全日本仏教婦人連盟は2001年より里親として生徒たちの教育資金の支援を継続しています。この子ども達が成長して多くのスキルを身につけ、力強く生きていくことを心から祈ります。